

大阪工業大学工学部 学生員 ○越中 康尚

大阪工業大学工学部 学生員 渡邊 元喜

大阪工業大学工学部 正会員 吉川 眞

1. はじめに

最近、都心部には空き家や駐車場といった低利用地が多くなりつつある。とくに伝統的街並みにおいては、その傾向が顕著であり、伝統的街並みの持つ良さが失われている。現状では、大都市の近郊に多くの新興住宅地が整備され、そこに住居を構える人が増えている。その影響のためか、都市の中心部に残る伝統的街並みでは、ドーナツ化現象が起こり人口が激減し、空き地や空き家が目立っている。効率化や土地の有効活用のもとに伝統的建造物の建て替えも行われてきている。その結果、伝統的な街並みの調和が失われ、不揃いな街並み景観が形成されている。しかし一方で、余裕ある生活空間が求められている中で、風情や情緒のある伝統的街並みの良さも見直されつつある。

2. 研究の目的

生活環境、産業構造の変化に伴い街並みは大きく変化している。しかし都市の変遷の上では、このような街並みの変化は当然のことである。問題は、無秩序に建て替えが進むことにより、古い町家風の建物と現代的な建物が入り乱れて、伝統的街並みの雰囲気や損ねることにある。行政が取り得る伝統的街並みを保存する政策は、現状では景観条例などを定め、伝統的建造物に対しては改築を規制し、周辺部の建造物に対しては、色彩の統一やファサードに伝統的建造物の様式を施すことなどである。しかし、この政策は住民にとって規制の面が多く、必ずしも受け入れられているわけではない。

そこで本研究では、伝統的街並みを含む地区の分析を行うことで、街区単位の特徴を見だし、地域の現状を把握したうえで、地域に適した街並みについて検討を行うことにした。

3. 調査

伝統的街並みの重要な構成要素である町家を中心として取り上げ、現状の調査・分析を行った。調査対象地区として、図-1に示す京都市の西陣地区を取り上げた。具体的には、東を堀川通り、西を千本通り、北を芦山寺通り（一部、上御霊前通り）、南を今出川通りに囲まれた約56haの地域である。調査中においても建て替えなど、伝統的街並みが失われていく現状を目の当たりにした。西陣地区は織物産地として有名であり、実際に織屋や織物問屋など織物関連業がみられる。高級織物で知られる西陣織は、家内工業的な側面を持ち併せているため、地区内には昔ながらの町家での織屋の営みもみられる。繊維業は京都市の基幹産業でありその多くが西陣地区に集中している。しかし近年、繊維業を取り巻く環境は厳しく、関連業者の廃業も多い。西陣地区もかつてのような活気がなくなっている。西陣地区の特徴である町家と繊維関連業者の現状調査とともに、調査地区全域にわたり建物構造や階数などを調べ、街区単位での伝統的街並みの現状分析を行っている。

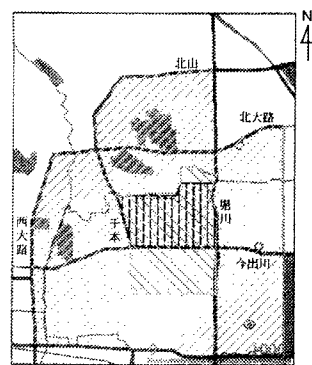


図-1 西陣位置図

4. 分析方法と結果

調査結果をGIS（地理情報システム）を用いて表現し分析を行った。ベースマップには、スキャナで取り込んだ1/2,500都市計画地図をform-Z上にてトレースしたものをを用いた。建物ごとにIDを振り、調査結果と関連付けを行った。GISの利用により任意の要素による抽出が容易になっている。

街並みの検討を行うには、通り沿いの線的な景観だけを考えるのではなく、面的な景観が必要となる。そこで現在の西陣の街並みの状況を大きく分類してみると、①歴史的建造物が多い場所、②現代的建造物が多い場所、③歴史的建造物と現代的建造物が混在している場所、さらに④建造物無し（駐車場）が多い場所に分けることができる。この分類を判定する際に各建造物の軒数と建築面積の比率を用いて街区の特徴を見いだした。その結果、一例として図-2のように、街区が7種類に分類された。

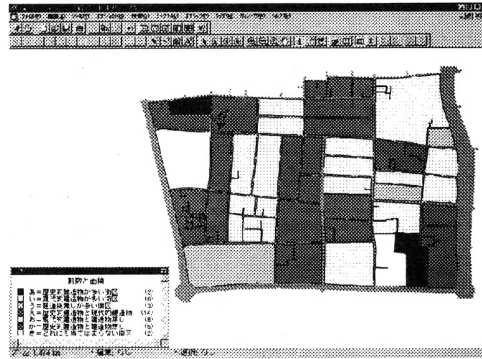


図-2 街区単位の分類図

5. 景観検討

調査対象地区の分析結果をもとに現在伝統的街並みから現代的街並みへ変わりつつある街区を特定し、①現状の街並み、②隣接する現代的な街区から予想される今後の街並み、③伝統的街並み景観へ配慮した場合の今後の街並み、を簡易3次元CGを用いて作成し景観検討を行った。一例を図-3, 4に示す。簡易なモデルであっても街区の特徴が表現されている。

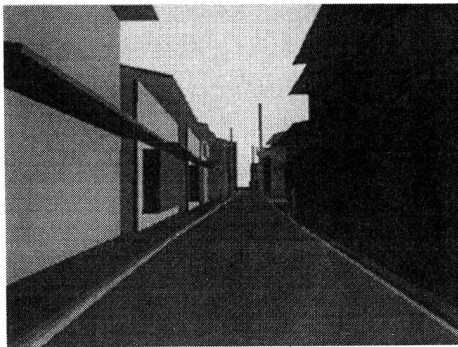


図-3 簡易3次元CG（街路）

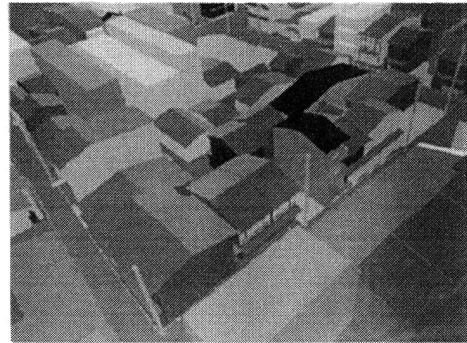


図-4 簡易3次元CG（俯瞰）

6. おわりに

京都・西陣地区の調査・分析により、伝統的街並みを抱える地区の現状が明確になった。今回の分析では、街区の構成要素の比率と全体の平均との関係を用いているが、伝統的要素がわずかに平均に至らない街区が現代的要素の多い街区と認識されてしまう問題を抱えている。そこで、主観的に伝統的街並みの雰囲気をもっているといえる街区が抽出できる伝統的要素の比率を検討している。今後の街並みのあり方を検討するうえで、今回作成した属性データを基本に、実際の建物利用状況のデータなどを加えて、より現状の街並みの傾向に即した提案を行うとともに、京都・伏見地区などにおいても分析と景観検討を行いたいと考えている。

- 【参考文献】 1) 京の市街地景観 保全・再生・創造 / 京都市都市計画局都市景観部
2) 職住共存地区・高度集積地区整備ガイドプラン / 京都市